

29amA-244

細胞毒性を有する放線菌由来アントラキノン

○塚原 健太郎¹, 當銘 一文¹, 石橋 正己¹(¹千葉大院薬)

【目的】本研究では採取した土壌, 海砂, 海水より放線菌を分離培養し, 放線菌ライブラリーを構築した後, このライブラリーからの新規生物活性天然物の発見を目的とした。

【方法・結果】AGS 細胞 (ヒト胃がん細胞) を用いた細胞毒性試験により当研究室で構築した放線菌ライブラリーのスクリーニングを行なった。次に, ヒットした菌株を小スケールで培養し得た酢酸エチル抽出物, メタノール抽出物について LCMS, TLC により成分分析を行った。分析の結果, 共通の成分を産生せず, TLC において黄色のスポットが認められた CKK1107 株 (山梨県笛吹市石和町の土壌より単離) を選別し, 目標化合物の探索を行った。本菌を Waksman 培地にて振盪培養し培養液を得た。培養液上清の酢酸エチル抽出物の各種クロマトグラフィーを行い, 黄色化合物 **1**, **2**, **3** を得た。NMR, MS 等の各種スペクトルの解析と文献値との比較により **1**, **2**, **3** をそれぞれ β -indomycinone, Saptomycin A, rubiflavinone C-1 であると同定した。現在活性を検討中。また同様にして選別した CKK1125 株 (北海道札幌市北区の土壌より単離) より X-14881 E (**4**) を得た。現在本菌のさらなる成分探索を行っており, その結果も合わせて報告する。

